



中電プラント **岩国総合技術センター**

中国電力グループでプラント工事業の中電プラント(広島市)が山口県岩国市で建設していた「岩国総合技術センター」が2024年3月に開所しました。カーボンニュートラル関連プラントの建設に必要な溶接技術を開発するほか、研修施設なども兼ね備える一大拠点となります。今回の特集号で同センターをご紹介します。



技術をつなぐ、  
一大拠点  
**開所**

Contents

- p2 岩国総合技術センターの概要、中電プラントの紹介
- p3 山田恭平社長ごあいさつ、福田良彦・岩国市長からの期待
- p4 岩国市の観光MAP



岩国総合技術センターは、中電プラント社員の研修や技術開発の拠点となります。その取り組み事業や将来像について、山田恭平社長と中川直樹センター長のコメントを交えて紹介します。

## 配管工場、 研修施設を集約

### 岩国発電所の跡地に整備

中国電力は2020年6月、重油と原油を燃料に用いる岩国発電所2号機と3号機を廃止しました。これにより、1966年に営業運転を開始した岩国発電所は廃止。その敷地は19万6000平方メートルあり、同社は跡地の有効活用を検討しました。中国電力ネットワークと中電プラントが施設を建設すると決め、22年8月に岩国市との間で進出協定を締結しました。

トルで、社員の研修場所となります。屋上などに年間計約26万7000キロワット時を発電する太陽光パネルを設置し、生み出した電気を棟内で消費。省エネルギー仕様でもあるため、電気の消費量が発電量を下回るゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)となるのが特長です。また倉庫棟は同約950平方メートルあり、工用資機材の保管場所となります。



▲次世代の溶接技術を開発する一大拠点となる

▲溶接技術を磨いてきた従来の溶接技術センターなどを岩国市に集結させた

そのうち中電プラントは発電所跡地の約1万3000平方メートルを活用し、「岩国総合技術センター」の建設を始めました。23年1月に着工し、24年1月に竣工。同年4月に運用を開始します。建設費用は約12億円。事務職員が務める研修管理棟や工場棟、倉庫など3棟で構成してあります。工場棟は延べ床面積が約1200平方メートルあり、火力発電所用の配管などを製作します。高圧モーターなどの点検場所としても活用します。研修管理棟は同約1550平方メートル



▲山田社長(右)らが出席して岩国発電所跡地利用の協定を締結



# 脱炭素 に対応、 進化する 知見

## この地で、 磨きをかける

当社は脱炭素社会の実現に貢献するため、プラントの基本設計と資材調達、建設工事、メンテナンスまで一貫して請け負える「総合エンジニアリング企業」に成長することを中期経営計画で掲げています。その一環として、岩国総合技術センターを建設しました。

当社が山口県宇部市に保有していた溶接技術センターも同センターに統合。各地に分散していた研修施設と倉庫も集約するなど一大拠点となりました。この総合技術センターで、溶接分野やバイオマス発電関連設備の新たな技術開発にも取り組めます。

現在は石炭火力発電所で木質ペレットを石炭に混焼する方法が増えています。このペレットをベルトコンベヤーでボイラーに運ぶ際、少し砕けて粉じんが舞います。飛散対策に取り組みが必要があり、



山田 恭平 社長

## バイオマス用に独自技術を開発 水素やアンモニアで変わる溶接

多くの現場が困っていると言われます。そこで当社は新たな対策設備を開発しました。集塵機で吸い取った粉じんを固めてペレット化し、ベルトコンベヤーに戻して再利用する設備です。当社のオリジナル技術で、すでに中国電力の新小野田発電所と三隅発電所に導入されました。他の電力会社やボイラーメーカーも興味を示してくれています。今後は石炭火力で水素やアンモニアを混焼する方式も普及するでしょう。これらの燃料とボイラーをつなぐ配管は二重化が求められる箇所もあります。特殊金属を用いて溶接するので従来技術で対応するのは難しい。この溶接技術を開発した溶接技術センターで確立させる考えです。

溶接の良さあしがプラントの安定運転を左右します。カーボンニュートラル電源が増えても、当社の溶接技術で安定供給を引き続き担いたいものです。

## 建設から保守まで幅広く 安定供給の一翼を支える

### 火力・水力・原子力 主要機器担って70年

中電プラントは水力・火力・原子力発電所のボイラーやタービンといった主要機器や受変電設備のメンテナンス事業と建設工事に取り組んでいます。高い溶接技術を駆使して大型プラントの安全性と頑健性を高め、中国電力グループの一員として電力の安定供給を支えています。

取り組む工事はタービンやボイラーの据え付けから試運転、保守など。電気集塵機や排煙脱硫・脱硝装置といった環境関連装置の組み立てや分解点検も得意分野です。2023年3月



▲山田社長はイベントで「100年企業に向けて精励しよう」と社員に呼びかけた

には創立70周年記念イベントを開催。新作業服も採用しました。脱炭素の流れで政府は2030年までに非効率な石炭火力を削減する方針を打ち出しています。火力発電所のメンテナンス案件が縮小傾向になるため、現在はカーボンニュートラル電源の案件獲得に注力。これまでに中国地域で新設されるバイオマス発電所の建設工事を5件受注したほか、太陽光の発電事業にも取り組んでいます。

▼創立70周年を機に、紺色主体のデザインで動きやすくなった新作業服を採用



▲広島市にオープンした新スタジアムで看板を掲げ、リクルート活動につなげる

## 多彩な表情持つまち 技術伝承の場に期待

岩国市は、山口県の東部に位置し、北に雄大な西中国山地がそびえ、南に穏やかな瀬戸内海が広がる自然豊かなまちです。市内を流れる清流錦川には、昨年創建から350年という大きな節目を迎えた、5連の木造アーチが美しい名勝錦帯橋が架かっており、市の宝物として市民はもちろん、多くの観光客を魅了しています。

また、沿岸部には大規模工場が集積し、瀬戸内海における臨海工業地帯の一翼を形成するとともに、昨年累計利用者数が400万人を超えた岩国錦帯橋空港をはじめ、山陽新幹線や高速道路インターチェンジ、岩国港など陸海空の交通ネットワークを有しております。豊かな自然、伝統的な



岩国市 福田 良彦 市長

## 熟練技術は「財産」 地域経済の振興へ

建築物、活力ある産業、そして、充実した交通インフラなど、これら全てが一体となって岩国市を形成しています。このたび竣工されました岩国総合技術センターは、風光明媚な瀬戸内海沿岸部の一角に設置され、溶接技術などの総合的な社員教育の拠点施設として運用されると伺っています。ご承知のとおり、熟練の技術は企業の財産であり、これを次の世代へと受け継いでいくことは、企業活動を安定して継続していくためにも、大変重要な要素であります。岩国総合技術センターが、この岩国の地で次世代を担う新たな人材を育成し、後世に技術を伝承する場として未永く稼働されることにも、地域経済の振興と発展にもお力添えを賜りますことを心から願っております。

## より高品質な サービスを

### 70人体制で機動力発揮

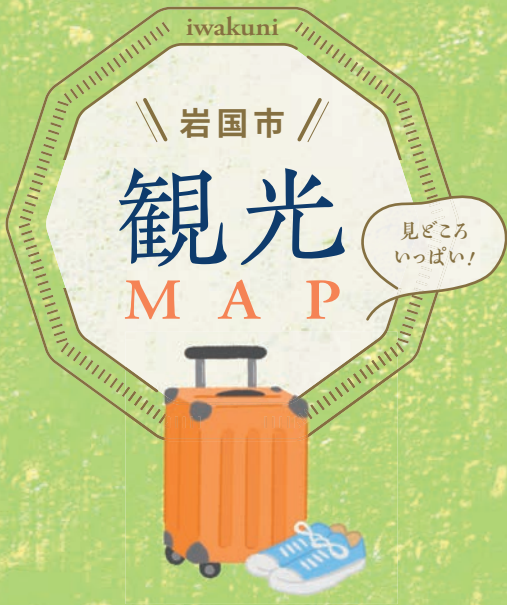
当社はお客さまのプラントの設計や建設、試運転、メンテナンスの仕事部門ごとで分業してまいりました。これらに従事していた各部門の要員を総合技術センターに配置し、今後は70人体制で設計から建設、試運転、メンテナンスに一体となって取り組む体制を整えました。機動力を上げて、より高品質なサービスをご提供したいと考えています。

企業理念の行動方針に「夢を語り 挑戦し続けます」との一文があります。当社は2023年に創立70周年を迎えましたが、今後は100年企業に向けて当社を発展させるように夢を語り、若手社員に道しるべを示すことが我々の責任です。

そのためにも失敗を恐れることなく新規分野に挑戦する姿勢が重要。どのような困難が立ちあがっても一つ一つを成長の糧だと捉え、総合技術センターのメンバー全員で知恵を絞りながら果敢に挑戦したいです。



岩国総合技術センター 中川 直樹センター長



Gourmet

### 岩国れんこん

岩国はレンコンの日本五大産地の一つです。肉厚で、折ると長く糸を引くのが特徴。もっちりとした粘りとシャキシャキとした食感が味わえます。



Gourmet

### 岩国寿司

大きな木枠に季節の具材と酢飯を交互に何段も押し重ねた押し寿司です。郷土料理100選にも選ばれています。



とことこトレイン

岩国藩鉄砲隊



岩国城



錦帯橋



岩国シロヘビの館



錦帯橋のう飼



吉香公園



潮風公園みなとオアシスゆう



Gourmet

### 五蔵の酒

清流錦川など、豊かな自然に恵まれた岩国。清流が生み出す岩国の地酒は、蔵ごとに味の個性があり、こだわりと魅力が詰まった名酒ばかりです。



Gourmet

### 高森牛

芳醇な香りが豊かで県内外からの評価も高く、その肉質は甘みとコクがあります。多様な食べ方で楽しむことができます。

写真提供：岩国市観光振興課、岩国市観光協会

制作・発行：電気新聞中国支局 〒730-0041 広島市中区小町4-33 中電ビル2号館3階